



# しまねの社会教育だより



photo 大田市志学まちづくりセンター「通学合宿での風呂掃除の様子」

## 特集

### これからの「公民館」への想い

—島根県公民館連絡協議会 会長 長岡 誠氏に聴く—

2017.  
9月号

- contents
- 「地域を担う人づくり」の推進をめざして  
—しまねのめざす「地域力」醸成チャレンジプロジェクト—
  - 学びをカタチに!! (大田市：三瓶公民館)
  - わがまちの社会教育の実践紹介 (知夫村・邑南町)
  - 親学プログラム活用紹介 (松江市教育委員会生涯学習課)

# これからの「公民館」への想い

～島根県公民館連絡協議会 会長 長岡 誠氏に聴く～

## 公民館のいま

### 公民館の様子は、昔と今で変わってきましたか？

昔は、講座や教室を開いていたのが公民館。なんとなく人が集まって地域住民の交流の場として機能していた。

しかし、今はそれだけじゃすまなくなっている。地域課題自体が多岐にわたっているため、それを地域で解決するために、公民館が中核となって動く必要がある。住民が「公民館は自分たちの立場と同じで、常に住民目線だ」と思っていないと地域住民は動いてくれないし、ついてこない。公民館に来てくれない。だから、ただ公民館は事業をすれば地域の人が育つという思いではなくて、根本的に、住民たちとの関係性をどうつくっていくのか、どのように地域とともに育っていくのかという視点が、今、公民館に求められていると思う。



長岡 誠 (ながおか まこと)

島根県公民館連絡協議会会長、松江市津田公民館館長。公立中学校で勤務し、教鞭を執る。その後長年公民館長として地域活動等に貢献される。

## 島根の公民館の動き

### 島根の公民館は、「地域を担う人づくり」を大切にしていると聞きますが…

地域が動くためには、地域住民の組織的な活動がないとできない。

公民館自体も、市町村の出先機関で終わったり、講座や教室をもっていたりすれば十分だと思っていたらダメ。自分の趣味や教養を満ちし自分を育てるのもいいが、次の段階として、地域のために何かを還元できる力を生み出すような講座や教室があったらいい。その原動力が公民館にはあり、大きな力である。公民館における学習は、そこまで考えてなされる必要がある。

こういった「地域を担う人づくり」を地道にしていくことが公民館や社会教育の役割だと思っている。そういう意味では、非常に地味な部分であるが、大変に重要な部分を担っているという自覚が必要だ。

島根の公民館は、全県的に「地域を担う人づくり」に向かって取組を進めており、大きな成果をあげ、全国的にも非常に注目されている。県公民館連絡協議会としては、引き続き県内の公民館等には頑張っていただきたいと思っているので、しっかりと支援をしていきたい。

## 津田公民館の実際 ～「津田の松原」への想いを残し、変貌していく街～

### 現任の津田公民館の様子を話していただけますか？

津田地区は昔、城下町に野菜を供給する農村地域だった。戦後、まちがどんどん変貌し、地元の人とよそから越してきた人たちがたくさん暮らす地域になった。地元でずっと住んでいるといろんなことが当たり前になり、課題に気づきにくくなっている。そこによそから来た人たちの力が有効に働き、まちづくりに大きな影響を及ぼしてくれている。それだけに津田は面白い。

## 学校と公民館の関係づくり

### 学校との関係づくりはどのように工夫されていますか？

地域と学校の間に入って調整していくのは、公民館の役割だと思う。

“連携”と口にするのは簡単なことだが、実際、地域と学校の関係づくりは難しいと感じている。

学校は、子どもを教えるところで、子どもと大人の関係づくりを学校でやるのは難しい。子どもと大人と一緒に活動できる場をつくってあげないと、地域と学校の連携はうまくできない。そこに公民館としての、地域と学校の連携を深めていく方法があると思う。

学校に押し付けるわけではなく、地域にそれを押し付けるわけでもなく、公民館の事業の一つとしてお互いに負担がない状況をつくりながら、仲を取り持つ。そうして、ただ一緒に活動することを目標にするのではなく、学校と地域双方に利益があるようにコーディネートしていくのがいい。頭から“学校とはうまくいかない”ではなくて、公民館が間に入って、地域と結びつけるというような気持ちでやりたい。

## 地域に愛される公民館

### つねに人であふれている公民館になるには？

公民館に人を集める工夫。それは、難しい話だ。津田では、人を集めることも、ひとつの仕組みになっている。公民館が、いかに地域の方々の意向を受け入れるか、これはとても大事なこと。地域の方々の意向を「公民館はできないよ」というのではなく、できるようにして受け入れることが大事。そうすることで人も集まる。

公民館に子どもが来るような仕掛けも大切だ。例えば、図書室には、一般書は置かず、児童図書を4000冊余り置いている。おかげで、子どもたちはもちろん、子どもを連れて親たちもどんどんやってくる。

また、「私たちの公民館」と思ってもらえる仕掛けも大切だ。そこで、図書室の運営は図書ボランティアにすべてお任せしている。このことは、ボランティアにとって、自分たちも一緒になって公民館活動を盛り立てているといった意識の高揚にもつながっている。



津田公民館と津田小学校が連携し、「津田に七夕通りをつくろう」の事業を行った。小学校体育館に幼稚園児、小学校児童、地域住民等、総勢約1,000人が集まり、103本の笹竹に願い事を書いた短冊や飾りを付けた。

## 持続可能な仕組みをつくる

### 主体的に自立できる団体がたくさんある公民館になるために働きかけていることは？

以前は、公民館が団体の事務局をもっているということで、企画から運営まで公民館に任せきりの団体もあった。このことは県内でも多くの公民館が抱えている悩みなのかもしれない。私はこれではダメだと思い、公民館は、事務局の一員となり、団体自体が事務局をもって企画から運営するような仕組みをつくった。それが今もずっと続いている。

自立できる仕組みを地域の实情に合わせてどう工夫するかが大切である。仕組みをつくってコーディネーター役に徹することが公民館の役割となる。公民館が前に出すぎてはいけない。私流にはそうなんだ。それが私の“公民館に対する哲学”かもしれない。

とにかく、地域の人を中心になって動くことを大事にしている。“人を集めること”と“自走させること”を大切にしている。だから、今日もこうして地域の方がたくさん公民館に来てくれている。

人が集まり、持続可能な仕組みをもつ公民館が増えるよう応援をしていきたい。

# 「地域を担う人づくり」の推進を

島根県教育委員会は、島根県公民館連絡協議会（以下県公連）に事業を委託し、市町村が地域の教育資源を活用し、地域づくりに主体的に参画しようとする「地域を担う人づくり」を進めるために、地域の拠点である公民館機能の強化、公民館等の活動の充実を図るための支援を行っています。

その中でも、「しまねのめざす『地域力』醸成チャレンジプロジェクト」では、“ねらい”のある様々な活動を通じた学びによる「地域を担う人づくり」の推進を目指しています。県（県公連）と市町村及び、各公民館等がタッグを組んでそれぞれの地域や市町村で成果を上げるよう支援することをねらっています。

また、それらの人づくりのプロセスやノウハウ等の成果を県内に波及させるとともに、育成した人材が地域活動に向けて動きだし実践活動ができるように支援します。

モデル実施した体験活動の普及啓発活動を通じて全県へ波及することをねらっています。

## 地域課題解決型公民館支援事業

地域課題の解決を図ろうとする地域住民の活動を支援する公民館等を支援する。

（テーマ）

- ◇ 若者の地域参画
- ◇ 生活課題の解決
- ◇ 防災を通じた絆づくり
- ◇ 子育て支援・家庭教育支援
- ◇ その他の課題

## ふるさと体験活動モデル調査研究事業

地域住民の協力を得て宿泊を伴う体験活動を行う公民館等を支援する。

県立青少年教育施設において体験プログラムの開発、成果の検証等を行い、ふるさと島根にある教育資源を活用した体験活動の普及を図る。

地域課題解決型  
公民館  
支援事業  
事例 1

## 「大好き鳶巣!住んでよかった鳶巣!元気!やさしさ! しあわせあふれるまち とびす」

出雲市 鳶巣コミュニティセンター

若者が自信をもって「大好き鳶巣!住んでよかった鳶巣!」と言える魅力あるふるさとづくりをめざしています。そして地域の未来創生につなげることを目的とした「4事業」を展開しています。

様々な事業を若いスタッフを中心に企画を進める中、多世代が協働して地域の「ひと・もの・こと」のすばらしさを再認識できる歴史写真集も併せて編纂し、未来にむけて、持続可能な地域づくりへとつなげました。

### ◆事業の概要

- ・「コミセンカフェ」づくり
- ・よさこいを通じたまちづくり
- ・未来へつながる夏の鳶巣まつり
- ・歴史写真の編纂 DVD作成

### ◆取組の成果

コミセンカフェや夏の鳶巣まつり、よさこい等の事業の企画・立案に、次代を担う若者が加わったり、子ども達（中学生）の意見を反映させたりすることをおして、住民が事業に主体的に関わる意識が強くなると共に、ふるさと鳶巣に対する愛着が高まったように感じている。



子どもと大人の意見交換会



コミセンカフェづくりに向けた協議

※ここでの公民館は、社会教育法上の公民館だけでなく、実態として公民館の機能を担うコミュニティセンター、交流センター、まちづくりセンター、地域コミュニティ交流センターを含みます。

地域課題解決型  
公民館  
支援事業  
事例2

## 「みんなでつながる!みんなで動き出す!川合の防災まちづくり」

大田市 川合まちづくりセンター

川合まちづくりセンターは、「地域のつながり」を大切にした、安心安全なまちづくりをめざしています。

平成20年に川合町自主防災会協議会を結成し、自治会を中心にした自主防災会の支援や、町ぐるみの防災活動に取り組んでいます。これらの事業を通して、住民が地域の防災に関心をもち、地域住民が主体となったまちづくり活動を推進しています。

## ◆事業の概要

- ・住民の防災意識を高める取組
- ・各地区の防災リーダーの育成
- ・団体や施設が連携した防災訓練
- ・避難所における非常食づくり講習会

## ◆取組の成果

これらの事業の取組により、地域住民の防災意識の高揚が図られ、川合町内の12自治会と2福祉施設、消防団、合計15の自主防災会の活動が活発になりました。

また、育成された防災リーダーが中心となり、自治会ごとに防災に向けた話し合いや炊き出し訓練の実施がなされるなど、地区ごとの防災活動が進んでいます。

防災を通じて、地域住民と町内の各種団体福祉施設等との「絆」が深まり、幅広い協力体制の構築ができつつあります。



防災の研修会



非常食づくりコンテスト

ふるさと体験  
活動モデル  
調査研究事業  
事例3「ふるさとの「ひと・もの・こと」をたっぷり体験できる」  
地域資源を生かした3泊4日長期宿泊体験活動

邑南町 田所公民館

子どもたちにふるさとを好きになってもらうため、これまでの通学合宿に土日を加え、地域の自然や歴史・文化について学んだり体験したりする時間を増やしました。さらに今年度は、地域学校ハンザケ（公民館自主団体）が主体となり、企画から運営まで行いました。公民館はこれまで培ってきた地域とのつながりを活かし、地域住民をはじめ、各団体への協力依頼や調整などを担いました。

## ◆事業の目的

- ・交流・体験活動をとおして、子どもも大人もふるさとを知り、ふるさとに誇りをもつ。
- ・地域住民等が、子どもと関わることで、地域で子どもを育てる気運を高める。

## ◆取得の成果

- ・地域にはたくさんの大人（先生）がいることを子どもたちは知り、大人との関わりをとおして、大きな声であいさつしたり、話をしっかり聞いたりするようになりました。
- ・事前の打合せや下見を行うことで、関係団体と思いを共有することができ、連携して取り組むことができました。



地域の大人（先生）と子どもたち



竹で炊飯器づくり

# 学びをカタチに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを活かし、地域や現場で“地域力の醸成”につながる実践に取り組んでいる方を紹介します。

## “つどう”で“つなげる”地域の絆 を合い言葉に！

大田市 三瓶公民館 主事 福島 真夕子 さん

大田市では「協働によるまちづくり」を推進するために、公民館とまちづくりセンターが連携・協働しながら「人づくり」と「地域づくり」を展開しています。

福島さんは三瓶公民館で「三瓶ワクワク交流会」や「通学合宿」、「思春期・赤ちゃん交流学習」など様々な事業を行っています。

そこで役に立っているのは、社会教育研修センター主催の「公民館等職員研修－PDC Aサイクルを活かした公民館事業の実際－」や「社会教育主事講習[B]」で学んだことだと、話していただきました。



「“地域が大好き!”と自信をもって自慢できる人を増やしたい」と私は思っています。地域の様々な世代の方が集い、語り合うことを通してつながりを大切にし、地域よさを知り、そして地域に誇りにもつようになってほしいと願って、事業を行っています。

そのために、研修で学んだ「意見を出し合う場づくり」や「ふりかえり」を大切にしています。例えば、コーヒーを飲みながらリラックスした雰囲気づくりを心がけることで、意見を出しやすいようにしています。また、通学合宿の「ボランティア説明会」を「ボランティア打合せ会」と名称を変更しました。そうすることで、参加人数が増え、自分事として話し合う姿が見られようになりました。ちょっとしたこともかもしれませんが、積み重ねることで、お互いを知り、意見を出し合い、それが反映されることでさらに積極的に取り組む姿が見られるようになりました。

私自身、研修を積極的に受けるようにしています。毎回「自分は今こんなところにいる大丈夫?」と不安になりますが、新たな学びや発見があります。そこで多くの人と知り合い、刺激を受けることで、前向きにとらえ、チャレンジするようになりました。

### ■三瓶ワクワク交流会の実施



「三瓶ワクワク交流会」は、三瓶地区の小学校（3校）・中学校（2校）の児童生徒、PTAを対象に行っています。子どもと大人が時間を共に過ごし、直接語り合う機会をつくりたいと考え、企画・実施されました。

校区・校種を越えて、子どもと大人が集い、いきいきと語り合う姿が見られたそうです。人と人とのつながりを大切にしてほしいという福島さんの想いが伝わってきます。

### ■通学合宿に向けて「ボランティア打合せ会」



志学小学校の児童（1～6年生）を対象にした通学合宿に向けて、ボランティアの打合せ会をされました。この会には、地域の大人とここで育った高校生（当日は中学生もボランティアとして参加）の約25名が集まり、この合宿を通して「どんな子どもに育ててほしいか」など意見交換をしました。話し合われたことをまとめて掲示することで、合宿中に子どもや大人もこれを見ながら、いろいろな場面で少しずつ意識する姿が見られてきたそうです。

福島さんは、今後、この高校生にもっと活躍してもらえるようなことを考えていきたいと熱く話されました。

# 社会教育の実践紹介

## 知夫村

### 村の特色ある宿泊体験活動第1ステージ「はじめてのキャンプⅦ」

～地域の大人がプログラムを支えるキャンプ！～

知夫村教育委員会 派遣社会教育主事 兵馬 稚比呂

知夫村では、「子どもたちに『生きる力』と『豊かな心』を育みたい」という思いから、小中学校9年間を3つのステージに分けた宿泊体験活動を行っています。このキャンプは、小学1～4年生を対象とした初級キャンプとあって、たくさんの地域の大人に関わってもらっています。

今年度はサポーターの募集を広げ、サポーターには草刈りや食器洗い・0円食堂企画への協力、島の若者有志には去年よりもこわ～い肝試しの運営、隠岐島前高校のボランティアには子どもたちの活動の見守りなど、沢山の地域の大人が子どもたちの活動プログラムを支えています。



高校生が見守る「すいか割り」の様子



今年度初めての取り組み「0円食堂」の様子

「知夫里島学び舎構想」に基づき、島民全体で思いを共有し、次世代を担う子どもたちを計画的に育てようとしている活動です。「城が峰会」が計画の段階から参画して活動していることが素晴らしいです。

(隠岐教育事務所  
社会教育スタッフ企画幹)

中でも、知夫の子どものよりよい育ちを支えることを目的として結成された「城が峰会」は、事務局と共にキャンプの計画をして、流しそうめんや肝試しなど様々な活動を取り入れ楽しいキャンプになるように尽力しています。

パワーあふれる地域の大人たちが関わってくれるからこそ、子どもたちはこのキャンプを楽しみ、大満喫します。ふるさとの夏の思い出が子どもたちの心に刻まれたことを願っています。

## 邑南町

### 『日本一の公民館・日本一の公民館主事』を目指して

邑南町教育委員会 生涯学習課 統括課長補佐 小笠原美穂子

「邑南町は公民館の聖地である」と以前、鴨木県教育長が言われたことがあります。

その聖地である邑南町には地域の核となる12の公民館があります。12の公民館は、住民の皆さんが幸せになるためになくてはならない拠点となっています。

今、世の中では様々な事情により公民館のあり方が変わってきています。

その中で、社会教育の要である公民館を作っていくためには、5つの力(企画力・応用力、コミュニケーション力、ファシリテーション力、コーディネート力、プレゼンテーション力)が備わった公民館職員の育成が急務であると考えます。



平和学習「歩こう広島まで」



国立三瓶青少年交流の家でのSAP体験

「人づくりとは何か」を考えることは、公民館の原点に立ち返ることにつながります。公民館を通じて、住民が主体的に参加・活動することにより学び、住民が育つという邑南のまちづくりへの思いが伝わってきます。

(社会教育研修センター)

また、国、島根県の社会教育の方針及び邑南町の教育の指針として位置づけています「邑南づくり教育計画」の柱が“人づくり”になっています。

最近、地域課題解決事業や地域創生地区別戦略プラン事業を推進するにあたって“人づくり”ってなんだろうと素朴な疑問が公民館主事からあがってきました。

“公民館の聖地”として評価を頂いた中で、現場での素朴な疑問、“人づくり”について、考え方等を再考し、確実に公民館の教科書として後世に伝えていくため、今一度原点に戻って学び、チーム邑南としての大きな力をつけていこうと考えています。

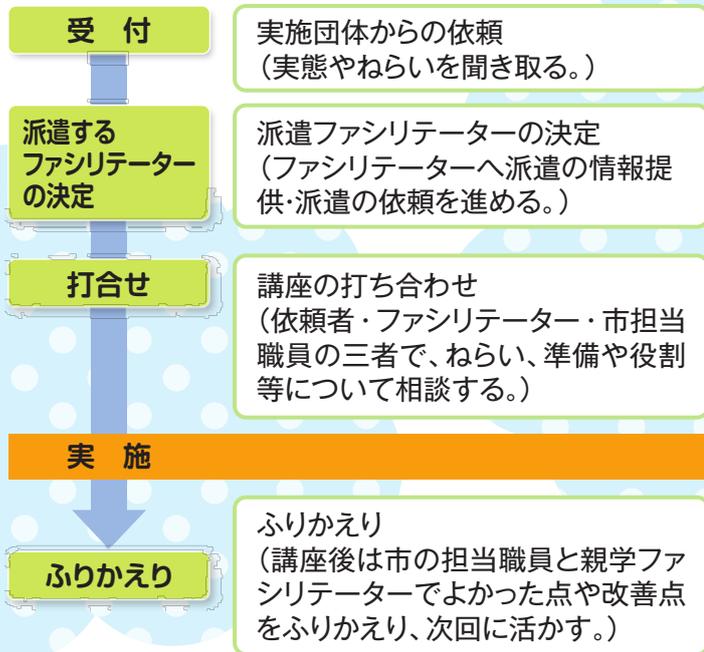
こうやって自学を含めた学びを重ねていくことが『日本一の公民館、日本一の公民館主事』に確実に近づいていくと確信しています。

# 親学プログラム活用紹介

## [松江市]

松江市では、家庭教育支援事業の一環として、親が安心して子育てができるように保育園・幼稚園・小学校等を中心に親学講座の普及・活用に取り組んでいます。

### 親学実施の流れ



### 松江市の親学 今後へ向けた動き

- すでに活躍している親学ファシリテーターに協力いただき、新たなファシリテーターを育成するために“親学ファシリテーターの養成講座”を周辺の市と共催しています。  
また、ファシリテーター同士のつながりを深め、親学ファシリテーターとしての資質・能力を高めるため、“フォローアップ講座”を養成講座と兼ねて開催しています。将来的には、ファシリテーターの自主的な活動として市内各地での展開をめざしています。



### ■ 親学実施のPR

小学校教頭会、市PTA連合会にて親学プログラムの説明をしています。平成28年度は親学ファシリテーターが市の担当者と同行し、それぞれの会の参加者に親学プログラムを体験してもらいました。



- 学校支援地域コーディネーター・放課後子ども教室コーディネーター・親学ファシリテーターの三者がともに学びあう場として、合同研修会を実施しています。

思いを共有し、つながり合うことで、地域ぐるみの子育て体制づくりや人づくりをさらに推進します。



### 編集スタッフから

子どもとの共通の趣味のひとつに“しまねめぐり”がある。  
県内のあちこちをめぐる道中に 駅や古墳・集落・神社など島根の“面白い”と思うところをめぐる。もう10年以上も続く親子共通の趣味。こうしてあちこち見て回ると、地域には“面白い”ことがたくさんある。  
先日訪れた、小さなまちのお祭りで、会う人同士があいさつし、笑いあっている様子を見ながら「まちが頑張ってるって感じがする」「こんな風に地域の人がつながっている感じがうらやましい。」と子どもが言った。

### 東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F  
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: [http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu\\_shakaikyoiku/](http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/)  
E-mail: [tobu\\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp](mailto:tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp)

### 西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F  
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: [http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu\\_shakaikyoiku/](http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/)  
E-mail: [seibu\\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp](mailto:seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp)

第26号は  
2月末  
発行予定